



新津第一小学校通信

もみじ

令和3年10月29日発行
No.18
児童数 414人

<http://www.niitsuiti.city-niigata.ed.jp>

心を解放し、身体も頭も汗をかく経験

校長 間嶋 哲

ここ最近、天気の良い日には、私が立ち会ったうえで屋上を開放しています。屋上からの景色は、なかなかよいものです。様々な学年が入り混じって、屋上で一緒に遊ぶ姿は、とても微笑ましいものです。気持ち良い風にあたり、すばらしい景色を眺め、身体を動かして汗をかくことが、子どもたちの心を解放させます。

1学期の終業式では、『数独（すうどく）』を紹介しました。ナンバープレート、略して「ナンプレ」ともいうようです。1から9の数字が登場しますが、計算は全く不要な数のパズルです。スライドを使って順に説明すると、1年生でも容易に理解できました。校長室前には、数独の特設コーナーを用意してもらい、1級から5級までの問題が並んでいます。すでに数多くの子どもが、挑戦してくれています。中には、さらに難しい問題を求める子どももいます。

私が目指す学校像は、『知性と笑顔のある学校』です。

子どもに好きな教科を問うと、一般的には「体育」と応えることが多いようです。なぜでしょうか。おそらく、身体を動かすことの楽しさが根底にあるからです。逆に（特に高学年になると）、なぜ算数の授業が好きだという子どもが、極端に少なくなるのでしょうか。ズバリ言えば、「分からなくなるから」「できなくなるから」です。でも、「できなくなる」については、体育だって同じ場面はあるはずです。

体育の授業を見ていると、スポーツの楽しさをまず感じさせるために、できないなりに楽しむことができる工夫が、至る所でされています。一方、算数はどうかといえば、低学年のころから、楽しみながら習得させていくことが、私には少ないようにも見えます。早い段階から、知識の詰め込みや練習が繰り返されるばかりで、自分の頭で考えたり、友達と交流したりする楽しさ、あるいは、実際に創作したり、測定したりする経験をあまり積ませてこないのです。頭の中身も、身体と同様に汗をかかせ、成就感や成功体験をもたせることが大切です。数独が、その一助になればと考えています。

ところで、11月6日の授業参観日には、道徳の授業のほかに、情報モラルやネット依存にかかわる中学年児童、高学年児童への講演会（低学年は担任による情報モラル授業）、そして保護者対象の講演会を行う予定です。高い見識のある新潟市内の校長先生を招聘します。今の時代、子どもだけではなく、ネット情報との関わり方や情報モラルの基礎を、使っている現場つまり家庭内でも共有していることは必須なのです。ぜひ多数のご参加を、お願いいたします。

11月行事予定

日	月	火	水	木	金	土
31	11/1 全校朝会 後期もみじ班顔合 わせ会 4年PTA学年行事	2 6年地層見学	3 文化の日	4 諸校費口座振替日 クラブ	5 全学年5限授業 3年リトルファイヤースクール	6 土曜参観日 絵画作品展
7	8 振替休業日	9 避難訓練	10 市小研の日 授業4限 スクールカウンセラー来校 8:30~12:00	11 委員会	12 委員会イベント 調整会議	13
14	15 生活&家庭学習強調週間③ (~19日) かかわりアンケート	16 かかわりアンケート 教育相談日①	17 教育相談日②	18 教育相談日③ クラブ	19 教育相談日④	20
21	22 教育相談日⑤ 4年アグリパーク	23 勤労感謝の日	24 6年租税教室5・6限 読書週間 (~30日)	25 委員会	26	27
28	29	30 代表児童委員会 6年卒業アルバム個人撮影	12/1 全校朝会 希望制個人懇談会① (授業4限)	2 希望制個人懇談会② (授業4限)	3 希望制個人懇談会③ (授業4限) 諸校費口座振替日	30

※新型コロナウイルス感染拡大の状況により、予定が中止・変更になることがあります。

「自分らしく」 (人権・同和教育)

人権・同和教育担当 高橋 広美

新型コロナウイルス禍での生活も、もうすぐ2年になろうとしています。「て・ま・き」の生活も当たり前になってきました。その中でのもう一つの当たり前は「決して差別をしない」ということです。一小でも児童に対して感染症への理解を促す指導を続けています。差別や偏見は「よく知らないことへの不安」から生まれてくることが多いと言われています。新型コロナウイルス感染症についても「知ること」によって不安による差別を解消できると考えています。

しかし、「よく知っている」ことから起こる差別や偏見もあります。学校ではそれについての指導も、毎年継続されています。それは「男女平等教育」です。長い間の男女の役割分担の歴史や知らない間に

すり込まれている「当たり前」が無意識の差別や偏見となっている場合があります。職業や服装、行動などについては以前より選択の幅が広がっています。しかしまだ身の周りには、「ピンクは女の子の色」「男だからしっかりすべき」などの考えが見られます。今年度の「男女共同参画週間」のキャッチフレーズは「男だから、女だからではなく、私だから、の時代へ」でした。周りの大人が、そのらしさを認めることを意識して子どもたちに接することで、無意識の差別や偏見を無くしていくことができるのではないのでしょうか。

✦「男らしく」「女らしく」と言われたことはありませんか。



✦ 学校や家庭、いろいろな場面でも、にたようなことは、ありませんか。